

(13)昭和59年の防除上特に注意すべき病害虫

中央農業試験場 病虫部

本成績は、昭和58年に各農試、農業改良課及び各病害虫防除所が実施した発生予察事業ならびに試験研究の結果から主要病害虫の発生状況と新発生病害虫を総括し、さらに59年の防除上借に注意を要する病害虫について取りまとめたものである。

昭和58年の主要病害虫発生状況(平年対比,病害虫の種類数で示す)

作物名	少発生		並発生		多発生		作物名	少発生		並発生		多発生	
	病害	虫害	病害	虫害	病害	虫害		虫害	病害	虫害	病害	虫害	病害
水稻	8	6	0	5	4	2	ニンジン	1	2	1	1	1	1
小麦	3	4	1	0	5	1	ダイコン	0	3	3	3	1	0
大麦	0	4	1	0	2	0	ハクサイ	0	2	2	2	4	0
とうもろこし	4	4	0	2	1	0	キャベツ	1	3	2	1	1	0
大豆	5	3	1	4	1	1	トマト	3	3	3	0	4	0
小豆	7	4	2	3	2	1	ナス	2	4	1	0	1	0
菜豆	3	2	0	2	5	1	キュウリ	2	2	2	0	5	0
馬鈴しょ	2	3	4	3	5	1	スイカ	2	2	0	0	0	0
てん菜	4	3	2	1	3	1	メロン	5	2	0	0	0	0
リンゴ	5	5	2	0	1	1	イチゴ	3	2	3	1	0	0
タマネギ	1	3	2	1	1	0	牧草	11	3	2	1	4	0
ネギ	0	2	1	1	2	0	計	72	71	35	31	53	10
											合計 272種		

昭和58年に新たに発生または命名された病害虫

小麦	赤かび病(新発生)Fusarium nivale	(北見農試,
大麦	訓子府町で7月下旬秋小麦、8月中旬春小麦、ビール大麦の穂に淡桃色病害発生。網走,十勝の全域で既存の赤かび病より多発、空知でも発生。耐性菌検出。	十勝農試)
小麦	eyespot(仮称)Pseudocercospora herpotrichoides	(北見農試)
	7月に美唄市,滝上町の連作秋小麦の地際茎に灰白色紡錘形病斑を生じ倒伏。	
小麦	株腐病(新発生)Cortlcium gramineum	(北農試)
	7月に栗山町,長沼町,札幌市の秋小麦の地際部に星形淡褐色病斑を生じ	

倒伏。

とうもろこし	北方斑点病(新発生)Bipolaris sp. 9月に清水町,土幌町,芽室町,札幌市で、葉脈に沿って黄褐色小型病斑発生。	(北農試, 十勝農試)
大豆	落葉病(新称)Cephalosporium gregatum 昭和55年芽室町、57年帯広市,芽室町、58年両市町,札幌市で、9月に葉が急激に萎凋し、のち落葉枯死する病状発生。小豆の落葉病に類似。	(十勝農試)
タマネギ	かいよう病(新称)Corynebacterium flaccumfaciens 昭和46年以降各地で、育苗初期の1～2葉に爆裂症状を呈する株が散発。	(十勝農試)
ニンジン	ツヅリガの1種(新発生)同定依頼中 10月に富良野市で、灰黒色2cmの幼虫が土中で白糸をつづりながら根部を食害。	(中央農試)
ソバ	タデキジラミ(新発生)、phalara polygona 9月に長沼町転換畑で黄色L5mmの幼虫が白色ろう状物質を分泌して莖節や花芽に群棲し吸汁加害。成虫は黄色で胸背部に紋様を有し1.6mm。	(中央農試)
ハウレンソウ	斑点病(新発生)Cladosporium variable 2月北農試温室で下葉に円形小白斑、のち黄変枯死する株発生。	(北農試)
ブドウ	ケブカスズメバチ(新記録)Vespa smillim シダクロスズメバチ(新記録)Vespula shidai 秋季に余市町で果実に食害、デラウェアで被害が多い。	(中央農試)
クロミノ ウグイス カグラ (ハスカップ)	ニンジンアブラムシ(新記録)Semiaphis	(中央農試)
ブロームグ ラス	雲形病(新称)Rhynchosporium	(北農試)
スイートク ローバ	うどんこ病(新称)Erysiphe pisi 8月に札幌市でホワイトスイートクローバの葉の表裏に白粉の菌叢を散生。	(北農試)
オーチャード グラス	Cocksfoot mottle virus(新発生) 6月に網走市で葉,葉槽にストライプ症状株発生、病株率30%。	(北農試)

昭和59年の防除上特に注意を要する病害虫

作物名	病害虫名	昭和58年の発生		昭和59年の防除上の 注意事項または要点
		概評	主要因または知見	
水稻	いもち病	やや多	6～7月低温、8月高温、抵抗性低下、生育遅延、8月後半不順、初期防除遅延、罹病性品種	わら粃殻の完熟堆肥化、種粃の厳選と消毒、多窒素栽培抑制、種いもち病初期発生防止
	イネクビホソハムシ	やや多	6～7月低温が産卵長期化、生存率、加害活動助長、生育遅延	近年発生漸増傾向、冬量多、早期防除
小麦	赤かび病	多 (F菌多)	冷夏、不順天候、登熟遅延、刈遅れ、F.nlvale菌多、ベノミル剤耐性菌出現	麦稈完熟堆肥化、完全反転耕、種子の厳選と消毒、代替薬剤使用、適期刈取、雨ぬれ防止
	条斑病	多	汚染種子使用、種子消毒不備、土中菌量増1加、連作	採種体制整、健全種子使用、種子消毒、輪作、麦稈残漉焼却
大豆・ 葉豆	わい化病 黄化病	多多	ジャガイモヒゲナガアブラムシで媒介、57,年秋季好天で越冬密度高、4月高温で有翅虫多	路傍のマメ科植物発生源、アブラムシの発生動向に注意、土壌施用剤など早期防除
葉豆	かさ枯病	多	汚染種子多、6月不順で種子伝染発病増加、7月不順で蔓延	種子汚染率高、無菌種子使用、種子消毒、病株抜取、早期防除
小豆	落葉病	やや多	土壌伝染、種子伝染、作付頻度高、菌密度高、線虫が助長	健全種子、トウモロコシ、イネ科作物の導入輪作、茎葉完熟堆肥化、線虫防除
豆類	ダイズシストセンチュウ	転作多	基盤整備、機具共同使用、連作、作付頻度高	輪作、田畑輪換、抵抗性品種
馬鈴しょ	黒あざ病	幼芽多	種いも・土壌伝染、短期輪作、菌密度高、5～6月不順天候	種いもの厳選と消毒、輪作
	粉状そうか病	多	種いも・土壌伝染、短期輪作、菌密度高、不順天候で土壌過湿	健全種いも使用、輪作、腐植に富む畑は特に排水乾燥
てん菜	根くびれ症	多	Pythium.Rhizoctonia菌検出、覆土消毒不備、連作、短期輪作、移植後の不順天候	育苗土消毒、育苗管理、輪作
	テンサイトビハムシ	やや多	発生増加傾向、4～5月上旬の高温で越冬成虫活動助長	発生動向注意、発生初期防除
野菜	軟腐病	多	連作、作付頻度高、菌密度高、7月後半,8月後半の不順天候	輪作、病株処分、完全反転耕
	コナガ	並	発生増加傾向、各態混棲、防除適期	メソミル剤、DEP剤の使用

			設定困難、薬剤の効果低下	はさける、早期防除
	線虫類	多	キタネコブセンチュウ、キタネグサレセンチュウ、サツマイモネコブセンチュウ、連作設連作、作付頻度高、8月後半以降の不順天候が助長	植物、土壌検診、輪作、施設移動、抵抗性品種、殺線虫剤防除
ハクサイ	白斑病 黒斑病	多多	連作、作付頻度高、8月後半以降の不順天候が助長	輪作、完全反転耕
キュウリ	斑点細菌病	多	汚染種子、連作、作付頻度高、不順天候が助長	健全種子、輪作、被害茎葉焼却、完全反転耕

[目次へ戻る](#)